

令和6年6月20日

綾瀬市長 古塩 政由 殿

綾瀬市生涯学習推進審議会
会長 見上 一 幸



綾瀬市図書館基本構想について(答申)

令和5年8月28日付け綾生第1号で諮問のありました綾瀬市図書館基本構想について、当審議会及び当審議会図書館部会において数次にわたり慎重に審議した結果、内容は概ね妥当なものと考えられますので次の意見を付して答申します。

今後この答申をもとに、広く市民に利用され親しまれる綾瀬市立図書館が整備されることを期待します。

意見

図書館は、豊かな地域文化を創造する拠点施設として、また、市民の学習を支援する重要な基幹施設である。

しかしながら、本市の図書館は、昭和56年の本館開館から40年以上が経過し、蔵書収容能力の超過や、閲覧・学習・読み聞かせなどの各種活動のためのスペースの不足、施設・設備の老朽化、駐車場の不足、バリアフリー対応など、求められるサービスを提供する上で多くの課題を抱えている。

基本構想策定にあたって、そのサービスや施設等の現状と課題を整理し、より市民の具体的なニーズを丁寧に把握するためにアンケート、ワークショップ、図書館関係者ヒアリングを実施し、今後の基本理念・基本方針や図書館サービスの方向性、施設規模と再整備手法の検討を示したことで、計画の実現性・実効性を高めたことを評価する。

1 解消が必要な課題と今後の方向性

市民アンケート等の結果から、図書資料及び図書館サービスの充実や、快適な読書環境の提供が求められていることが明らかになった。これらの実現を通じて、本市の図書館が、市民により身近で利用しやすい場所となり、基本理念として掲げた「本と人とまちを心地よくつなぎ夢をつむぐひろば」になることを期待する。

2 図書館のサービスの方向性

基本理念をより具体的に示した3つの基本方針「本と人をつなぎ、一人ひとりの学びや暮らしを支援」「人と人をつなぎ、交流や新たな知の創出を促進」「人とまちをつなぎ、地域の魅力に触れながら思い思いに過ごせる拠点づくりに貢献」の実現に向けたサービスを推進していくことを期待する。

3 施設規模と再編手法の検討

人口同規模市の水準と将来推計人口を踏まえ、再整備後の収容冊数の計画値を約30万冊とし、延床面積を現時点では約4000㎡で整備されることを図られたい。

また、同規模自治体による開架率の中央館平均値約60%を踏まえ、現状より開架率を上げ市民が図書資料を探す楽しみを感じながら利用できる図書館を想定していることを評価する。

新たな図書館の整備には、望ましい施設規模の確保、図書館の基本理念・方針を満たすためのふさわしい立地、まちづくりへの貢献、機能の充実、工事期間中の現図書館のサービスの維持、整備のコストや今後どのくらいの期間利用できるかなどの費用対効果の面も重要になることから、新築を今後の整備イメージとして計画を推進されたい。